

## ◆ 今週のコメント

- ・ インフルエンザの定点当たり報告数は、1.41(96例)で、先週の3.41(232例)から更に減少しています。
- ・ 百日咳の報告が、1例(男性、6～11ヶ月)あり、3週続けて報告があります。本年の累積報告数は、4例です。全国では、第13週と同じ0.04で、最も多くなっています。

## ◆ 今週のトピックス: <突発性発しん>

定点当たり報告数は0.61で、過去5年平均値(0.47)を上回っており、本年で最も多くなっています。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数報告の感染症

- ・ 五類: アメーバ赤痢(腸管アメーバ症) 1例【1月以降の累積報告数 6例】

### 定点報告の主な感染

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	1.41	96
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	6.59	270
	② 水痘	0.90	37
	③ 突発性発しん	0.61	25
	④ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.56	23
	⑤ 流行性耳下腺炎	0.17	7
眼科	流行性角結膜炎	0.90	9

### 病原体情報

(検体名は、紙面の都合上、咽頭ぬぐい液をNP、糞便をFC、髄液をSF、尿をURと略す。)

検出病原体 (報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名	検出病原体 (報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名
コクサッキーウイルス A9型(1)	発疹症(第52週)	NP	アデノウイルス2型 (1)	かぜ症候群(第6週)	NP
エコーウイルス6型 (1)	無菌性髄膜炎(第3週)	NP,SF	血清型病原大腸菌 (4)	感染性胃腸炎(第7週×3, 第6週)	FC×4
インフルエンザウイ ルスAH1型(11)	RSウイルス感染症(第8週) かぜ症候群(第8週, 第7週×2, 第6 週, 第5週) インフルエンザ(第7週, 第6週, 第5 週×3)	NP×11	黄色ブドウ球菌 (10)	感染性胃腸炎(第8週) 川崎病(MCLS)(第8週) 不明・記載なし(第8週) かぜ症候群(第7週×3, 第6週×3, 第 5週)	NP×10
インフルエンザウイ ルスB型(1)	かぜ症候群(第6週)	NP	A群溶血性レンサ 球菌(5)	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(第7週) かぜ症候群(第6週) 手足口病(第6週) インフルエンザ(第5週) 上気道炎(第5週)	NP×5
A群ロタウイルス(1)	感染性胃腸炎(第7週)	FC	肺炎球菌(10)	かぜ症候群(第8週, 第7週×3, 第6週 ×2, 第5週, 第4週) 感染性胃腸炎(第7週) 感染性胃腸炎(第5週)	NP×8 NP FC
ノロウイルスGII(5)	その他のけいれん(第7週) 感染性胃腸炎(第7週, 第6週, 第5 週×2)	FC×5	インフルエンザ菌b 型(1)	無菌性髄膜炎(第3週)	NP
アデノウイルス1型 (1)	かぜ症候群(第6週)	NP	インフルエンザ菌b 型以外(10)	RSウイルス感染症(第8週) かぜ症候群(第7週×3, 第6週×4) インフルエンザ(第5週) 下気道炎(第5週)	NP×10
			マイコプラズマ・ ニューモニエ(5)	かぜ症候群(第6週, 第4週×2, 第52 週) 下気道炎(第5週)	NP×5

### 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <突発性発しん>

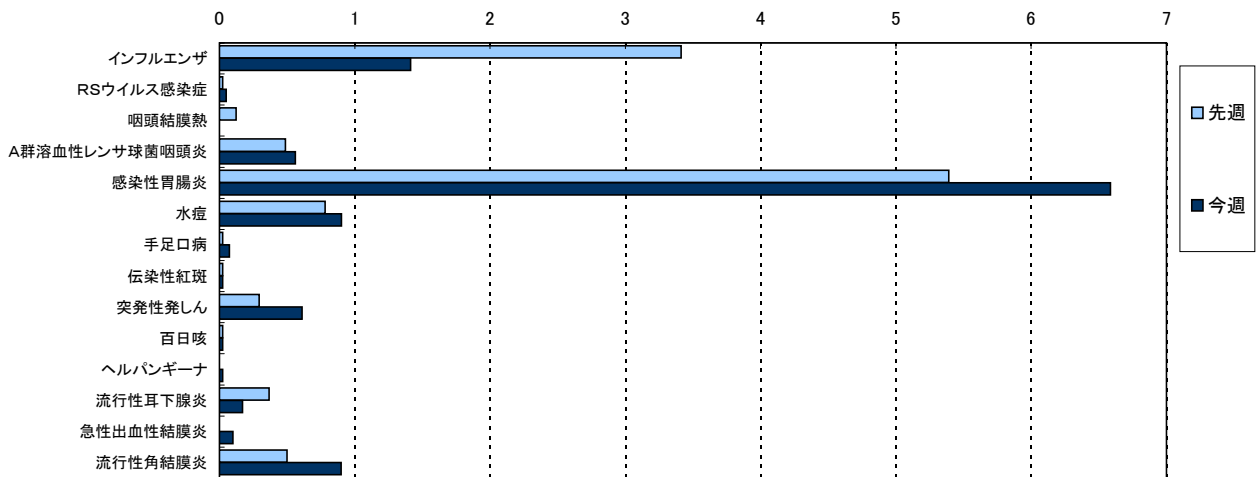
(注) 京都市のデータは、平成21年4月16日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。

また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。

病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

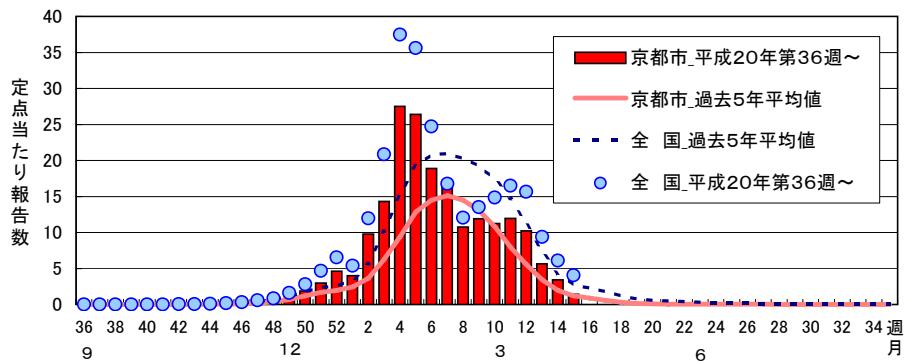
# ◆ 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第15週)と先週(第14週)の定点当たり報告数の比較



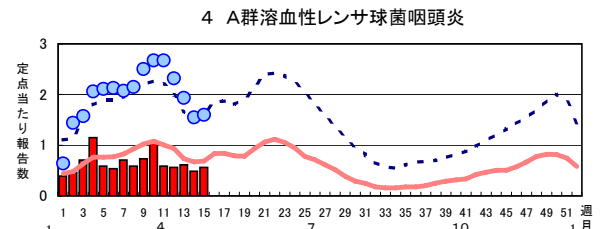
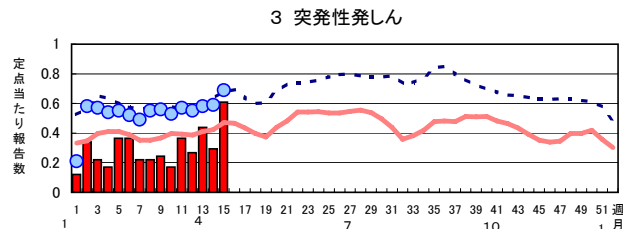
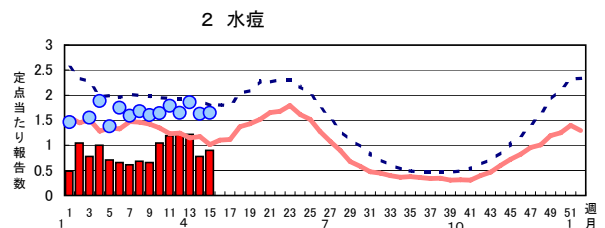
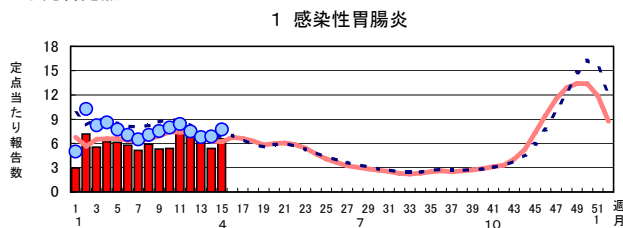
## 2 インフルエンザの推移

週	報告数(例)
第11週	814
第12週	696
第13週	385
第14週	232
第15週	96
累積報告数 (第36週以降)	13262

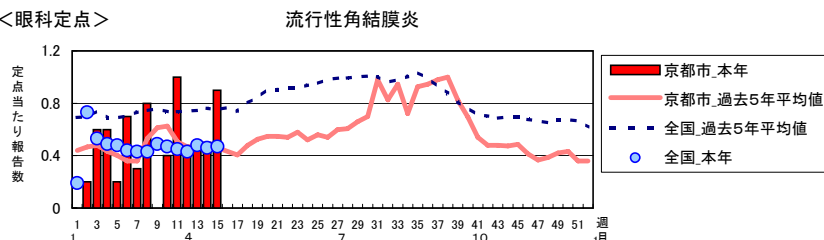


## 3 主な感染症(小児科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



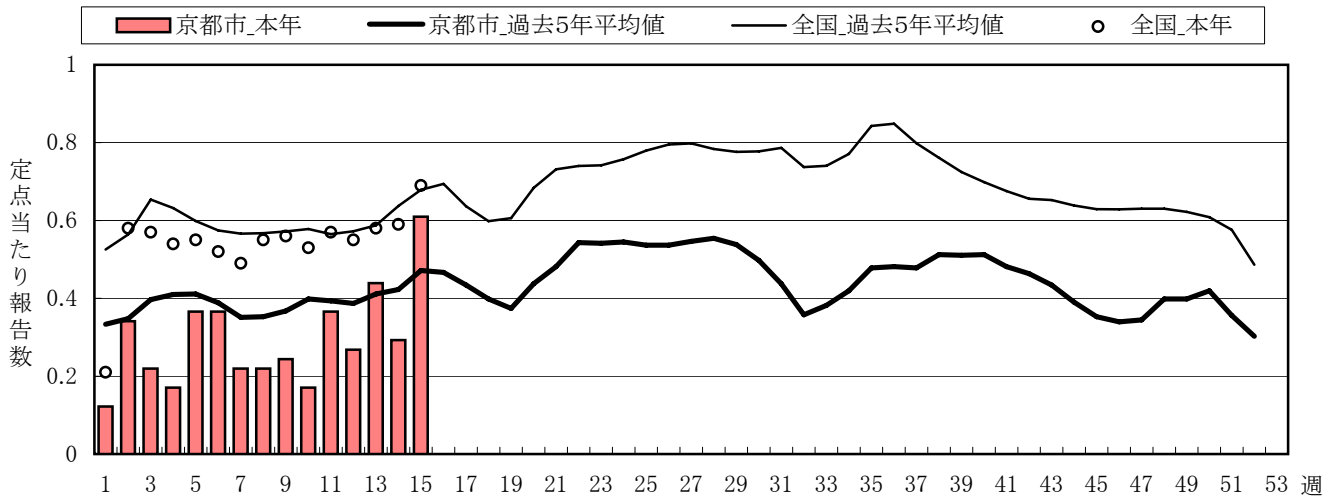
# 今週(第15週)のトピックス: <突発性発しん>

定点当たり報告数は0.61で、過去5年平均値(0.47)を上回っており、本年で最も多くなっています。また、全国でも同様に本年で最も多くなっています。

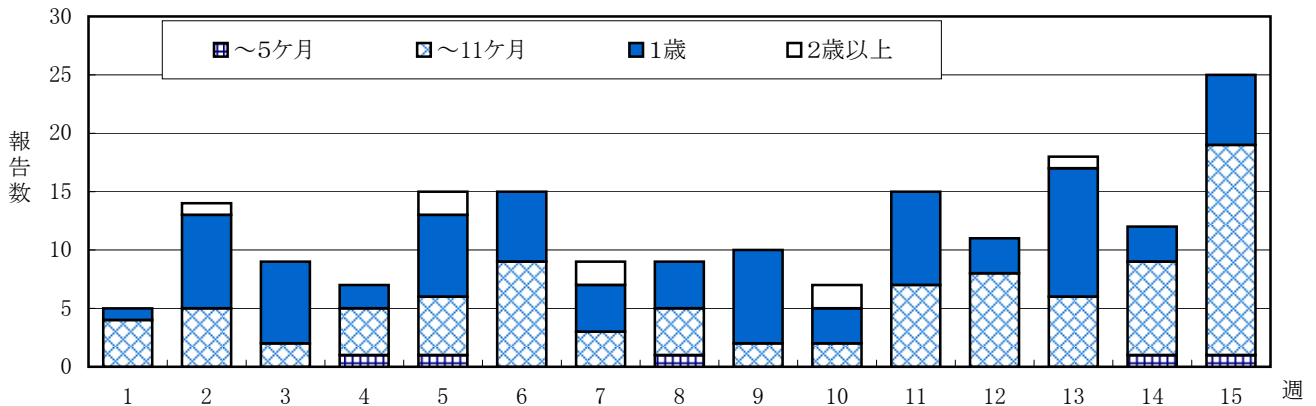
年齢階級別に本年第1週以降の報告数をみますと、1歳以下が大部分を占めており、今週は、特に6～11ヶ月が最も多く、72.0%を占めています。

行政区別報告数をみると、伏見区が最も多くなっています。

### 本市及び全国の定点当たり報告数の推移



### 週別年齢階級別報告数



### 行政区別報告数

